2024年　第17回　静岡県教育のつどい　in 静岡市

楽しくておもしろい学びと育ちを
みんなで支える地域と学校にするために
わたしには何ができるのだろう

成長・発達の仕方が一人一人ちがう多様な子どもたちの豊かな育ちと学びを、
みんなで見守り支えようとする学校・地域の再生が、今あらためて求められています。
将来への希望である子ども・若者の声にならない悩みや苦しみ、そして願いに耳を澄まし、
保護者・市民・教職員、そして子育てと教育にかかわる行政がつどい、語り合い、
何ができるのだろうか、共に考えあいましょう。

日時　2024年11月24日（日）9：30～16：00

会場　静岡県男女共同参画センター「あざれあ」　〒422-8063 静岡市駿河区馬渕 1-17-1 電話 054-255-8440

9：15～受付開始　　9：30～9：40 開会全体会

9：40～11：45　記念講演≪静岡県教職員互助組合高校支部　教育講演会≫

記念講演　鈴木宣弘さん　（東京大学大学院教授・農業経済学専門）

「食といのちと子どもたちの未来」

東京大学大学院教授、専門は農業経済学。
東大農学部卒業後、農林水産省に入省。２００６年から現職。
１９５８年、三重県で半農半漁で生計を立てる両親の一人息子として生まれ、田植え、稲刈り、畑の耕起、海苔摘み、アコヤ貝の掃除、牡蠣むき、うなぎのシラス獲りなどを手伝い育つ。
安全な食料を生産し、加工し、流通し、消費する人達、その関連産業の人達が、支え合い、子や孫の世代の健康で豊かな未来を守りたい。
日本の食料自給率は種や肥料の自給率の低さも考慮すると 38%どころか 10%あるかないか。海外からの物流が停止したら世界で最も餓死者が出る国になってしまっている。「今だけ、金だけ、自分だけ」の「3 だけ主義」の日米のオトモダチ企業による国の政治を取り込んでの農家や国民からの収奪を放置してきたからだ。
国内生産の増強が必要だが、日本では生産コストが倍増しても農産物の価格が上がらないので廃業が激増し、関連産業も農協・生協も地域の政治・行政も存続できなくなっている。
今こそ、協同組合、市民組織など共同体的な力で、自治体の政治・行政、心ある企業と連携して地域で奮起し、地域のうねりで国政を動かす必要がある。地域の種を守り、生産から消費まで「運命共同体」として地域循環的に農と食を支えるローカル自給圏を構築したい。そのための一つの核は学校給食の地域公共調達。農家と住民一体化で耕作放棄地を皆で分担して耕すなど提案したい。輸入途絶の懸念と有機・自然栽培を求める消費者の潮流を背景に、流通・加工も今すぐ国産に移行すべきだ。
お金を出せば食料が買える時代は終焉した。不測の事態に国民の命を守るのが「国防」なら、地域農業を守ることこそが真の「安全保障」である。「防衛費５年で 43 兆円」の一方で「農業消滅」を進めたら、「兵糧攻め」による日本人の餓死が現実味を帯びる。トマホークの爆買いではなく、コオロギ、培養肉、人工卵の推進でもなく、農業にこそ数兆円の予算を早急に付けるべきである。「農は国の本なり」。

食と農、食糧危機など、総合的な学習、探求の時間、授業などでどう扱ったらよいかも語っていただきます。
Zoom によるオンラインでも配信します　希望者はアドレスをお知らせください

主催　静岡県教育のつどい実行委員会・静岡県教育会館・静岡県教育事業団体連絡会
後援　静岡市教育委員会

１２：４５～ 午後受付開始　１３：００～１６：００ 共育分科会

<table>
<tr><th></th><th>テーマ</th><th>報告するとりくみ</th></tr>
<tr><td>A</td><td>授業づくり、学級・HRづくり
楽しい学び</td><td>

・「学級を　豊かに育てる授業実践」　（高橋順子）
地域の民話を題材としたオペレッタを子どもと共に創作しました。その中で、学級を豊かに育てることを願った小学校２年生の実践です。生活、音楽、図工、国語を合わせた授業実践です。

・「中学理科の授業　ＩＣＴを使って、できることとできないこと」（松下マリ子）

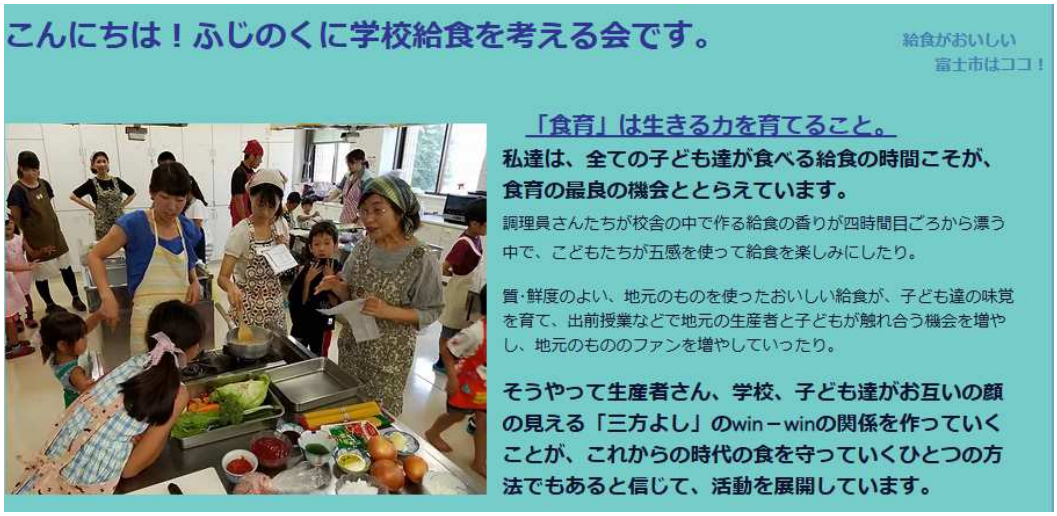
・「高校のHR実践と人権教育」　（早川恵子）
HRと人権教育としての取り組みについて報告します。クラスでは生徒同士を繋げたいと考え席替えや当番を工夫したが、文化祭では上手くいかず。年１回の人権のLHRでは「子どもの権利条約」を学ぶ取り組みをしました。

</td></tr>
<tr><td>B</td><td>子どもたちの豊かな食を支えるために</td><td>

・地域で支えるこどもの「食育」　沼津市学校給食を考える会　（代表　大澤はるみ）
コロナ禍に始まった毎週金曜日の「ひとり親世帯」への食糧支援。そこに市場から旬の野菜が届けられたことで、ウェブ上でつながった仲間同士が料理の作り方を発信。料理にチャレンジする人が増えたという思わぬ食育啓発事業につながった。

・シニア＆こども食堂「遊（ゆう）」　（代表　若月かず子）
シニア世代の居場所フリースペースで「こども食堂遊（ゆう）」がはじまりました。元気なシニアが、自発的に食材を持ち込み、メニューを考え、楽しみながら作った料理を月２回、こどもたちにも提供しています。

・地元の生産者による小学校での出前授業。
NPO法人ふじのくに学校給食を考える会　（小櫛和子）



平成２８年に始まり、今年で１９年目になります。今では、年間５０回以上、２５００人前後の児童を対象に行っています。学校給食で地産地消を進めることで、より安心安全な生産と消費の在り方、持続可能な食糧システム、地球環境について等を考えるきっかけとします。

・「特別支援学校における食育に関する指導」　（新村　仁）
特別支援学校は知的や自立の教育課程が多いですが、通常の教科指導をしている学校もあります。きめ細やかな教科指導を通して、経験が広がり、いきいきと授業に取り組み、活動していく児童の姿にやりがいを感じました。今回は食育と理科の合科的な指導の実践を紹介します。

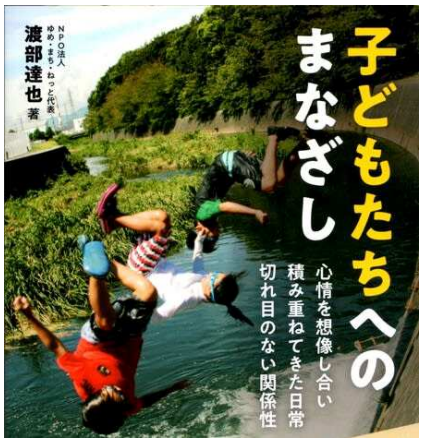
・地元でお茶、ミカンを栽培する　（岡崎航平）
・「オーガニック給食」を求める各地の活動

</td></tr>
</table>

C

子どもたち・若者たちの豊かな育ちと学びを支えるために

・「ゆめ・まち・ネット」　（渡部達也）



児童相談所やこどもの国等に勤務後、38 歳で県庁退職。市民活動ならではの社会課題の解決を目指し、重障児施設等に勤務した愛妻と 2004 年、「ゆめ・まち・ねっと」設立。「冒険遊び場」や「こども食堂」、自宅開放の「みんなの家むすびめ」等運営。

生きづらさを抱えた子ども・若者の居場所づくりはメディアで度々報道。総務大臣賞、県知事表彰等受賞。著書に「子どもたちへのまなざし」。県少子化対策協議会委員、富士市子どもの権利条例懇話会委員等歴任。

・「不登校という素晴らしい生き方」　（大山浩司）

不登校の子どもたちは、硬直化した学校教育から脱出することを選ぶことができた素晴らしい感覚の持ち主です。

ところが「学校に行くのが当たり前」「学校に行かなければダメ」という固定観念が、逆に子どもたちを傷つけ、追い込んでしまっています。

2017 年に施行された“教育機会確保法”にあるように、学校から離れて生きる道をポジティブに選べる社会づくり、そして子どもたちを固定観念から解放してのびやかに成長できるような学校以外の育ちの場所を増やしてゆくことが、私たち教育者の責務です。

・「空耳子ども会」　（橋本　純）

月２回、自然の中で遊び、手間ひまかけて食事をつくり、親子で充実した一日を過ごしています。

麦まき・麦刈り・うどんうち。そばまき、そばかり、手打ちそば。じゃが芋育てて、コロッケ、肉じゃが、ポテトサラダ。生地からこねて、レンガの窯でピザづくり。羊腸にひき肉詰めてソーセージ。味噌作り、もちつき、竹の子ご飯や野草のてんぷら。

竹で弓矢や飛び道具、ガリガリトンボや竹ほら笛づくり。

おもしろくて楽しいことがもりだくさん。夢中になって時間を忘れてしまいそう。

・「子どもと関わる大切さ」　SSS（静岡学習支援ネットワーク）

私たち静岡学習支援ネットワークは週に４回市内の各場所で教室をひらき、小中高生と関わっております。今回は、私たちがどのように子どもと関係を築いていくのかをはじめとし、関わる大切さや子どもたちの声を届けます。中学生中心にお話しします。

・平和の語り継ぎ部「エバーグリーン藤枝」　（山口良二）

「主権者は主催者から」「めんどうくささを引き受け楽しむ」「作って、食べて、つながって」を合言葉に、高校生が主催者として、平和に関する学習会、藤枝市平和展での「青春の鼓動～平和だからこそ～」を企画運営しています。大書、合唱、演奏、演劇などを通じ、「自分事」として平和への思いを語り継ぎ、伝える側に回ろうとしています。

D	特別な支援を必要とする子どもたち ・若者たちを支えるために	・「あたしもっと数学勉強したい！」 一肢体不自由児Ａさんと向き合った２年間の数学実践　　（杉山正樹） 本報告では、「数学好きじゃない！」という言葉から始まった肢体不自由児 A さんが、「もっと数学勉強したい！」と語るようになるまでの２年間の数学実践を紹介する。数学という教科を教える上での悩みや工夫について述べたい。 ・「一人一人に合わせた特別支援教育　～長い目で見る～」　　（清水佳子） 転校してきたばかりの時には、ルールを守らない、集団行動ができない、落ち着いて授業に取り組めない、１～２年たってすっかり落ち着いたのはなぜなのか、振り返ってみます。 ・「福祉型専攻科：青年期の心の成長に寄り添って、、、」　　（佐野瑞月） ４年前には、静岡では福祉型専攻科というスタイルをとった事業所はまだありませんでした。福祉型専攻科「Salita Fuji」は開設して４年が経ちました。 事業所として、不慣れで迷う日々を重ねながらも、４年経つと学校では感じられなかったこと、見切れなかったこと等など、考えさせられることばかりです。 福祉型専攻について興味のある方、青年期の心の育ちについて悩んでいらっしゃる方、一緒に考える場となったら嬉しいです。

【申し込み・問い合わせ先】

■　第１７回静岡県教育のつどい実行委員会事務局　　〒420-0004 静岡市葵区末広町１－４
全教静岡　Tel 054-253-3331　Fax 054-270-7802　zenkyoshizuoka@dream.ocn.ne.jp
静岡高教組　Tel 054-254-6900　Fax 054-254-0814　info@s-koukyouso.jp

■　参加申し込みは，１１月１５日（金）までにお願いします
右のＱＲコード、下記ＵＲＬからも申し込みができます
https://forms.gle/4pfhnY811bi9ips97

あるいは下記に記入し、FAX またはメールで、
上記事務局に送ってください。

参加申込書

参加費無料　　どなたでも参加できます。
お早めに申し込みお願いします。

所属　　ご氏名	連絡方法　電話 メールアドレス

参加希望に〇を記入してください。分科会・オンライン参加希望にも〇をお願いします。

１１月２４日（日）　９：３０～全体会・記念講演　鈴木宣弘さん	現地参加　　オンライン参加希望は メールアドレスをお知らせください
１３：００～共育分科会	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ　　対面のみ